

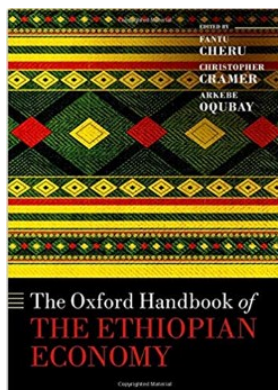
エチオピアの開発体制

アジアの視点から見たメレス・ハイレマリアム・アビイ政権の歩み

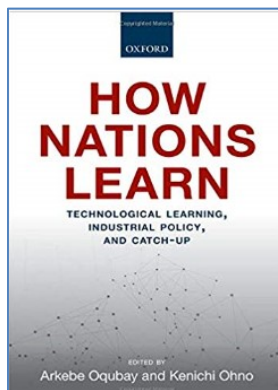
エチオピアは、過去に貧困・干ばつ・圧制に苦しんだにもかかわらず、また 1 億超の人口を擁しながら天然資源をほとんどもたないにもかかわらず、20 年ほど前から二桁の高度成長や急速な貧困削減を達成しました。多くの製造業外資(主として軽工業)を呼び込み、国営工業団地を急速に増やし、中国に大きく依存しながらもインフラ建設を進め、産業面でアフリカの優等生とみなされるようになりました。メレス & ハイレマリアム政権下ではワシントンコンセンサスを否定し、国家が優先業種を定めて支援する「アジア型」開発に取り組みましたが、2018 年に成立したアビイ政権は世銀・IMF に接近し、国営企業民営化を経済政策の柱としています。その意味では「普通の途上国」に回帰しつつあるようにも見えます。政治外交面では、エリトリアとの和平実現により、アビイ首相は昨年ノーベル平和賞を受賞しました。それにもかかわらず、国内の治安や民族対立はむしろ悪化しています。

GRIPS 開発フォーラムは JICA とともに、エチオピア首相・閣僚との産業政策対話を 2008 年より定期的に行っています(年 2~4 回)。そのモダリティは、やはりアビイ政権になってかなり変わりました。またエチオピアやアフリカ開発に関するいくつかの書物にも関与しました(下参照)。欧米の人々が高く評価するエチオピアですが、産業状況や政策策定の現場をみれば、他の後発途上国と同様、多くの困難に直面しています。本セミナーでは、政策対話の中間報告として、これまで東南アジアをホームグラウンドとして産業開発協力を携わってきた 2 名の GRIPS 教授が、2020 年のエチオピアに対する評価と懸念につき率直にお話ししたいと思います。

- 日時** 2020 年 3 月 19 日(木) 18:00-20:00
- 場所** 政策研究大学院大学 1 階 1A・B 会議室
- 講師** 政策研究大学院大学 大野健一教授、原洋之介名誉教授
- 言語** 日本語のみ
- 進行**
- 18:00 オープニング
 - 18:05 -18:35 大野健一 「エチオピア開発戦略の特質とアビイ政権がもたらした変化: 産業政策対話と開発研究からみた現在の立ち位置」
 - 18:35 -19:05 原洋之介 「経済発展の進行と開発体制シフトのダイナミズム: 東南アジアとエチオピアの比較研究」(仮題)
 - 19:05 -20:00 質疑応答 & ディスカッション
- 申込** 3 月 16 日(月)までに、GRIPS 開発フォーラムの鶴田静妹 (s-tsuruda@grips.ac.jp) まで、氏名・所属先・連絡先を明記の上、メールでお申し込みください。



The Oxford Handbook of the Ethiopian Economy, edited by F. Cheru, C. Cramer & A. Oqubay, Oxford Univ. Press (2019). 我々は産業政策対話に関する章を書きました。



How Nations Learn: Technological Learning, Industrial Policy, and Catch-up, edited by A. Oqubay & K. Ohno, Oxford Univ. Press (2019).